

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400403		
法人名	社会福祉法人 清和福祉会		
事業所名	社会福祉法人清和福祉会グループホームゆたか荘ベルホーム		
所在地	長崎県諫早市長田町2781番地1		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「コロナ禍」という厳しい中でもスタッフ一人ひとりが技術や思いやりを持ち、介護及び福祉の専門家を目指す為に研修へ積極的に取り組んでいます。
 研修で得た知識をただ吸収するのではなく、ご利用者様のニーズや清和福祉会における行動指針と照らし合わせて一人一人のご利用者様に喜んでいただけるお手伝いが出来るように努めております。
 ・ご家族との関係も大切にするため、写真を添付するなどした毎月のお便りを作成して、ご利用者の暮らしぶりや毎月の活動状況をお知らせしています。
 ・コロナ禍の為、感染対策の徹底。感染後を想定した行動をマニュアル化し、訓練、自主及び伝達研修を適宜行い、安心してご利用して頂ける環境づくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然に囲まれた高台で静かな場所に立地している。敷地内には同一法人の通所事業所、小規模多機能型居宅介護、生活支援ハウス、住宅型有料老人ホームが隣接し、連携を円滑に行いながら運営している。「事業発展計画書」を法人全体で策定し、趣旨、経営理念、行動指針、法人の未来像、ビジョン、重点方針、経営方針、社風、クレームに関する方針、環境整備に関する方針、挨拶に関する方針、事業目標達成計画、事業の予算を明確にし、職員全員が毎日1ページずつ輪読することで職員全体の目指すべき方向性が一致し、組織力の強化に繋がっている。コロナ禍で面会制限が続く中、職員は、家族とホームのLINE(SNS)を活用して入居者の日常の様子を詳細に伝えたり動画にして家族に見てもらったりなど、様々な工夫を行っている。また、医療機関と連携し、気になるような些細な入居者の情報も丁寧に伝えており、家族からの信頼も厚い。地域交流は一部自粛しているが、地域のこども園から七夕の短冊の笹や敬老の日に合わせたプレゼンをいただくなど、コロナ禍であってもこれまでの交流が途切れないよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「安全」「健康」「尊厳」「処遇」「リハビリ」のもと、生活支援を行っている。また、法人の計画(事業発展計画書)を毎日輪読して、繰り返すことで周知できるようにしている。	基本理念である「安全」「健康」「尊厳」「処遇」「リハビリ」のもと、入居者に穏やかな気持ちで過ごしてもらうことや入居者の希望する生活の実現に向け、日々の支援に取り組んでいる。「事業発展計画書」を職員全員が毎日1ページずつ輪読することで職員全体の目指すべき方向性が一致し、組織力の強化に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前までは年に数回、近隣のこども園・小・中学校や高校からの施設訪問や職場体験などがあり、一般ボランティアの訪問もあった。今年は七夕などのイベントの際は短冊付きの笹を、敬老週間にはDVDやプレゼントをこども園から頂いたりしている。	地域交流は一部自粛しているが、地域のこども園から七夕の短冊の笹や敬老の日に合わせたプレゼントをいただくなど、これまでの交流が途切れないうり取り組んでいる。法人全体で専門学校等と連携し介護実習生の受け入れや社会福祉協議会と連携して認知症に関する講義を行うなど、ホームの機能を地域に還元している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が地元社協と協力して住民に認知症の講演会や介護相談会を開催し、管理者も参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・包括職員・民生委員・老人会・自治会代表などに参加して頂き、職員より施設での活動内容や実施内容をお伝えし、それに対しての御意見を頂きながら、サービス向上に努めている。	運営推進会議は隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施している。同会議の構成は、自治会連合会会長、民生委員代表、老人会連合会会長、系列事業所家族代表、市介護保険課担当、地域包括支援センター担当、施設長、各事業所職員からなる。会議では活動内容と資料説明が詳細に行われ、各委員からの意見等を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、コロナで会議が開催できない時には運営推進会議資料と皆様からのご意見を送ったりしている。その他、役所へ出向き報告や相談などを話し合う機会をもっている。	介護保険課担当や地域包括支援センター担当が運営推進会議に参加しており、ホームの活動状況を伝え、助言等を得ている。必要に応じて生活保護に関する行政の担当部署や、関連する系列事業所とも連携し情報共有を行っている。行政と連携し、系列事業所の職員が行う介護のしごと魅力伝道師による活動や、社会福祉協議会と連携した認知症介護の啓発にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常での入居者様の状態を把握し、行動を制限しないよう職員間での連携に努めている。日勤、夜勤を含めた職員全員に身体拘束及び虐待の防止について研修を実施し、毎月身体拘束廃止委員会を開催する事で身体拘束廃止に努めている。	ホームでは身体拘束廃止に関する指針を整備し、身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会、職員研修を定期的に行って情報共有やホーム全体でのスキルアップに繋げ、身体拘束をしないケアに努めている。職員はチェックリストを用いて現状確認を行うと共に、スピーチロックにも意識を向け、入居者を制止する言葉を使用する場合も理由や根拠を伝えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックシートで虐待の芽がないか、全員で確認している。年2回は高齢者虐待防止に関する研修を実施している。入浴などを通じ身体状況を観察し、内出血等を見逃さないようにもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人の手続きの経験があり、別事業所で法テラスの弁護士にも相談の事例がある。必要のある方へは情報提供できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、パンフレット・重要事項説明書などを用いて説明し、理解して頂けるよう努めている。また、契約時に「不明な点についてはいつでも遠慮なくご相談ください。」と伝えている。利用料等の変更等についても随時連絡し、同意書を提出していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度も新型コロナ感染防止のため、来荘されたご家族には別室にて、それ以外のご家族へは電話やお便りにてカンファレンスを行っており、その際意見要望をお伺いするようにしている。またご家族の代表に運営推進会議へ出席して頂いている。	コロナ禍により面会制限や地域の感染状況に応じてガラス越しの面会などを行っている。家族の来訪時には多目的室で直接家族の意向を伺ったり、来訪できない家族には電話や便りの発送を通じて要望等を確認している。写真を載せたホームだよりを定期的に発行し、また、家族とホームのLINE(SNS)を活用して入居者の日常の様子を詳細に伝えたり、動画にして家族に見てもらったりなど、様々な工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時に職員から意見や気づきを挙げてもらう他、日頃から職員とのコミュニケーションを心がけている。出来ることはすぐに、出来ないときはその理由を伝え、協議が必要な場合は職員会議などで話し合っている。	毎朝、9時半からのミーティングには施設長も参加し、日頃から職員とのコミュニケーションを図っている。また、施設長は職員との個別面談を定期的に行い、職務のことのほか、悩みや困りごとなどメンタル面の把握に努め、職員からの相談や意見を聴く機会を設けて働きやすい職場環境づくりに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理なく働ける体制づくりのために夜間帯は専門の職員も設けている。給与については、キャリアパスを採用し職員の意欲向上に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの外部研修等を受け、その後伝達研修という形で職員会議の際に学んだことを発表してもらっている。伝達研修を受けた職員からは、感想等のコメントを書類で返してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎県グループホーム連絡協議会の研修にオンラインで参加し、職員のサービスの質の向上に努めている。今は特にコロナウイルス感染防止の内容が多い。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接等によりアセスメントした内容を職員間で共有し、本人が本人らしく生活し、早く馴染んで頂けるよう声掛けや働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の性質を理解してもらうとともに、家族の現状の介護負担や精神的負担を把握する事で問題意識を共有し安心して活用できるようお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の地域連携室と協働しご家族はもとより、ケアマネやケースワーカーから直近の生活状態を把握することにより、必要なサービスの確認を行い、生活維持への支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がやりたい事・できる事を把握し、洗濯物たたみやお盆拭きなどその方に合った役割作りに努めている。加えて、嫌いな事・やりたくない事も把握することにより、本人らしい生活の形成に取り組み、職員と本人との絆を深めることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止のため、直接的な関わりは難しい。その為、感染予防対策を徹底した状態でガラス越しの面会や、現在本人が望まれている事、必要な事をご家族に電話等でお伝えし、本人と家族の絆が離れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため、直接的な関わりは難しい。その為、毎月お便りを送付し、馴染みの方との関係維持に努めている。お便りの他、ホームページのブログでご利用者様の状況を見ていただける様にしている。	コロナ禍により面会制限を実施し、馴染みの友人や知人も来訪することが減少している。コロナ禍以前は、通常の面会や馴染みの理美容院への支援、家族との外出等、馴染みの関係を支援していた。コロナ禍を踏まえ、入居前の情報や、ホームでの会話からその方の情報を把握し、ぬり絵、たみ物、写経など個別支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションや体操、季節行事など、利用 者同士で活動する機会を設けている。また、 利用者同士の交友関係に配慮しながら座席 などを決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や関係者から状況を聞いたり、 希望に応じて再入所につなげるようにしてい る。また、法人の関連施設に入所される方も おられ、退所後の相談のにも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃から利用者との対話や言葉・しぐさから 思いを汲み取る努力をしている。意思の確認 が困難な方でも家族から関心ごとを聞いたり、 安心・馴染みのある環境を探し、作る事に 努めている。	入居時に、入居者本人や家族より生活歴や嗜 好、暮らし方の意向などを聞き取り、これまでの 本人の情報が分かるよう個人ファイルに綴じて残 している。本人の意向に沿ってパン食に変更する など柔軟に対応している。把握が困難な方には職員 が表情や反応から汲み取ったり、家族の意見や 情報を参考にし、その方が希望する暮らしを支 援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用開始時や日常の中でアセスメントを行 い、これまでの生活歴や生活環境などご利用 者様・ご家族様からの聞き取りなどで情報を 得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況を把握しその方に合った関 わり方を心掛けています。また心身の状況や変 化等は記録し、情報の共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に則した介護計画を作成している	年に最低1回は、ご家族様参加のカンファレンスを行い、その場で、本人や家族、職員から意見を収集し、利用者の状態に則した介護計画になるよう努めている。 毎月利用者の状況をお伝えするためにお便りを送り、ご家族からの意見が無いかわっている。	介護計画は入居者本人及び家族の意見や希望等を踏まえ、職員間で計画内容の共通理解を図った上で作成している。計画作成担当者は定期的にモニタリングを行い、介護計画は本人の状況に応じて6か月を目途に見直しを行い、大きな変化があれば随時に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや職員会議、個別記録や申し送りにて、利用者の心身の状況や変化を職員間で共有しながら日々の処遇を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して多様多機能なサービスの紹介をし、要望に応じて柔軟に対応出来るサービスを行えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人関連施設や移動図書館の活用など、楽しみのある生活が送れるよう支援している。新型コロナウイルス感染防止のため近年は行っていないが、近隣の学校との交流、ボランティアの来荘もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と話し合いながらかかりつけ医を決めている。受診は職員が対応し必要に応じて家族にも同伴して頂いている。また、体調不良時には協力医や主治医に連絡を取り相談、指示を仰ぐようにしている。	本人やその家族の希望に沿ったかかりつけ医を受診できるよう支援している。職員が受診に同行する際は、入居者本人の既往歴、病状、バイタル、食事状況等を記載した24時間シートを持参して入居者の状態を医師へ伝え、円滑な受診に繋げている。協力医による往診も月2回行われている。家族には受診後の情報を電話や毎月のたよりで報告しており、家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員と共に、健康管理など行っている。心配事があれば受診や主治医と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の定期受診などで日頃から医療機関を訪問、又は電話で情報交換を行っており、いつでも相談ができる医療機関を確保している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていない。主治医との連携を密にしている。事業所での対応能力についてもご家族様・主治医に説明し理解を得るよう努めている。必要であれば希望に応じたサービス提供が出来る事業所を紹介している。	入居時に、ホームで医療行為はできないこと、看取りを行わない方針を入居者及び家族に伝え、了承のもとで入居している。医療的な処置が必要となった場合は、医療機関への入院や特別養護老人ホーム等の紹介を行い、円滑に移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを配布し、職員が対応できるように備えている。また定期的に普通救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	緊急連絡網を整備し近隣の長田中学校へも連絡がいくようにして協力体制を作っている。新型コロナウイルス感染対策も考慮した緊急時の訓練を行っている。火災等を未然に防ぐため、毎月漏電調査等も行っている。	今年度は6月に夜間の火災を想定した訓練を実施している。避難、消火、通報についてそれぞれ自主訓練を行い、反省点と課題点を抽出して実施記録を作成している。隣接する事業所と合同で備蓄の保管庫を整備し、定期的に備蓄内容を確認している。	災害時の避難に備え、入居者情報一覧を準備されているが、避難場所で円滑に入居者情報を提供できるよう入居者の状態が分かる写真を追加しておくことが望ましい。また、現在、BCP(業務継続計画)を策定し、運用できるよう準備を行っているが、自然災害に関するBCPIについて、更に職員周知を図り、取り組むことに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者の人柄をよく理解し、その方にあつた声の掛け方・関わり方を実践している。介護者の都合や馴れ合いの関係で個人の尊厳を忘れないよう、職員間で接遇のあり方を見直すよう努めている。	「利用者第一主義」を掲げ、入居者の尊厳や接遇の在り方について話し合う機会を持ち、日々の支援に活かしている。職員は入職時に入居者の個人情報遵守について誓約し、プライバシーの保護や個人の尊厳など、接遇マナーについても研修の機会を設けている。また、「虐待の芽チェックシート」を活用し、意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助する前には声掛けにて本人の意思を尊重するようにし、本人の希望がすぐに行える事であればすぐに実行する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。嫌な事がある場合強制をせず、代替案を提示して本人が納得が出来るような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好んで着ていた馴染みの衣類などを家族に準備してもらっている。入浴時の衣類の準備も出来る方には本人立ち合いで準備してもらっている。2～3か月に1度、訪問美容師に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸や湯のみ・お椀など一人ひとりが使い慣れた物を使用し、顔を合わせ楽しく食事ができるよう配慮している。また片付けの出来る方にはお盆拭きなどを手伝ってもらっている。	法人の栄養士が策定した献立表により、厨房で調理した料理が提供されている。入居者個々の嚥下状態に応じて、ソフト食、キザミ食、ミキサー食等を工夫している。季節や行事に合わせた食事やおやつ等を提供し、焼きそばやトルコライスといった本人の好みや希望も取り入れている。アレルギーや本人の嗜好調査を行い、食事の提供時に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に嗜好調査を行っている。栄養士によるバランスのとれた食事を提供し、個々に合わせた食事形態で対応している。夏は水分を取っていただく回数を増やしたり、工夫してゼリーなども取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて、声かけまたは介助にて毎食後の口腔ケアを行っている。うがいが必要な方に関しては、口腔ケア専用の拭き取りで清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、残存機能を活かしながら排泄支援を行っている。日中はトイレへ誘導し排泄を促している。夜間も対応が必要な方には誘導を行っている。	職員は24時間シートを活用し、入居者の水分補給状況、排泄状況を確認し、排泄パターンを把握して排泄を支援している。排泄の自立度に応じて、パッド等の排泄用品のサイズや使用状況を検討し、可能な限りトイレでの排泄を継続している。必要な方にはポータブルトイレを居室に置いて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックや水分補給の実施。自然排便が少ない方に対しては主治医と相談し便性状等を報告し、個々の状態に合わせた下剤の調整をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の実施である。その日に入浴たくないと言われた方、また体調不良の場合については、翌日実施など日にちをずらして対応している。 一人ひとりの好まれる湯加減を把握し、いつでも快適に入浴を楽しんでいただけるように努めている。	週2回、午前中の中の入浴を基本として支援している。また、入居者の希望や状態に応じて、浴槽の温度設定や、翌日の入浴、半身浴、清拭等、柔軟に対応している。入浴がより楽しめるようゆず湯や菖蒲湯等、季節感を出す工夫も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や日中に活動を通して個々に合わせた生活のリズム作りを心掛けている。体調不良や浮腫み等の際にいつでも横になれるように部屋の準備をいつも整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から処方されたお薬の調剤表はファイルに綴じている。変更があった際は事業日誌に記載し、全職員に周知を図っている。薬の変更時は状態の観察を行い、変化があった際は、かかりつけ医に報告している。また服薬マニュアルを作り、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個人に合わせた役割作りや、利用者・職員が共同でできる壁画づくりや季節行事などの実施にて生活の中で楽しみを持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策も考慮した上での支援に努めている。マスクを着用しての敷地内の散歩や、車内からのお花見やドライブ支援など、利用者の体調を考慮しながら気分転換を図っている。	好天時にはホーム敷地内の散歩や地藏菩薩を参拝したり、ドライブで車内から花見に行くなど、コロナ禍でも入居者が気分転換を図れるよう努めている。コロナ禍が落ち着いたらコスモスなどの花見も企画しており、可能な範囲で外出の機会づくりに取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい為、家族管理とさせてもらっている。本人より物の購入の希望があった場合は、ご家族に本人の希望を伝え了解を得た上で、ご家族が購入し持参していただくようにしている。今年度は新型コロナウイルス感染に配慮して面会を控える家族もいらした為、家族に説明と了解を得た上で職員が代行して購入する事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には対応している。また、家族へは毎月お便りを発行し、本人さんの生活の様子を写真などで見ていただいている。ホームページにも静止画や動画をブログにアップしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には花等を飾り季節感を出し、リビングにはソファ・テレビなどを置き、音楽を流すなど団欒できる環境作りをしている。	ホームの玄関にはハロウィンを模した人形を置いたり、共用空間には季節の飾りつけや、入居者が好む歌の歌詞を掲示している。入居者はテレビで相撲を見たり、ソファで寛がれるなど思いおもいに過ごされている。リビングに二酸化炭素濃度計測器を置いて換気に留意し、日々の清掃と消毒により感染対策を行い、安心して過ごせる環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、利用者同士で団欒する場所の確保や、一人で過ごしたい時は食卓テーブルで過ごすなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品(寝具・衣類など)や家族の写真など、必要なものや本人が希望される物は持ち込めるようにしている。	居室への持ち込みは、刃物類や火気類などの危険物以外は特に制限を設けてなく、使い慣れた衣服や家族の写真、趣味の品などが持ち込まれており、本人が居心地よく落ち着ける居室づくりを行っている。家具の配置には、動線に配慮しながら自宅に近い環境づくりを工夫している。	入居者の状態により、日中、ポータブルトイレを配置している居室が窺える。本人の使い勝手や介護の動線を考慮した上で、必要に応じて目隠し等の検討がなされることが望まれる。引き続き入居者にとって居心地良い居室づくりに取り組まれることを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の希望や能力に応じて居室内のベッドや家具の配置を工夫している。		